

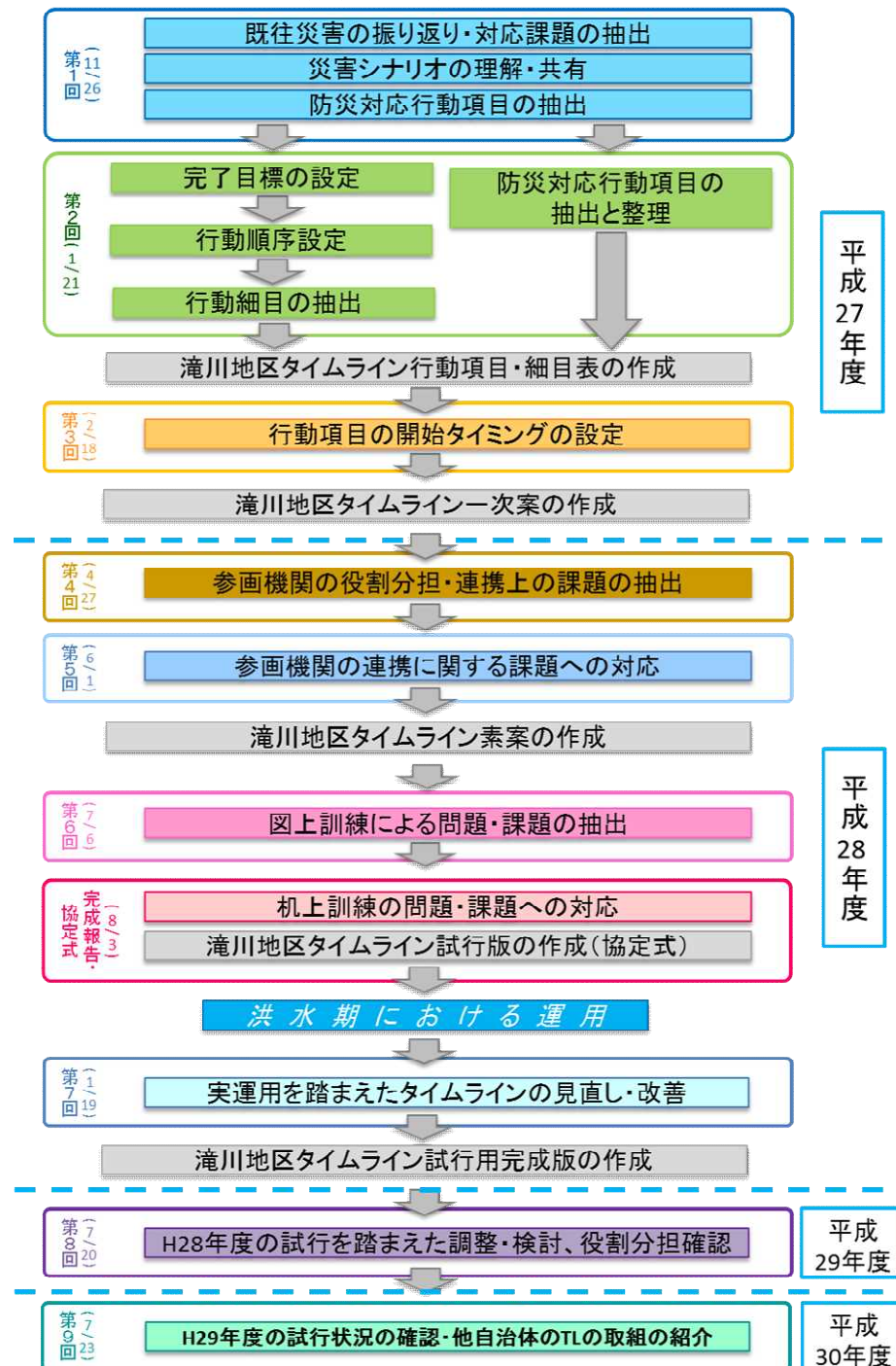
「石狩川滝川地区水害タイムライン検討会」の発足

滝川市は、石狩川と空知川に隣接して市街地が広がり、国道12号、JR函館本線や高速道路が交差する交通の要となり発展してきました。

一方、堤防や河道掘削などの河川整備が進んできたものの、近年の豪雨災害を踏まえると更なる対策が必要であり、河川改修等のハード整備に加え、河川特性や滝川市街地区の水害特性を踏まえたタイムラインを策定することが防災上、非常に有効です。

これらを踏まえ、滝川地区における関係機関が連携し、住民の生命を守るために、先を見越した早期の災害対応を実現する「石狩川滝川地区水害タイムライン検討会」を設置しました。

■ 滝川タイムライン検討会の開催状況



参加機関

- 陸上自衛隊
- 空知総合振興局
- 滝川警察署
- 滝川地区広域消防事務組合
- 滝川市消防団
- 空知土地改良区
- 中空知広域水道企業団
- 滝川市社会福祉協議会
- 北海道旅客鉄道
- 北海道電力
- 滝川市民生委員 児童委員連合協議会
- 札幌開発建設部
- 札幌管区気象台
- 滝川市(関係部署含む)
- 日本赤十字社
- NEXCO東日本
- 滝川ガス
- 滝川市医師会

- 滝川建設協会
- 北海道中央バス
- NTT東日本
- エフエムなかそらち
- 滝川市内自主防災組織(幸町第4区)
- 滝川市内自主防災組織(泉町連合)
- 東滝川連合町内会
- 東町連合町内会
- 西町連合町内会
- 有明町連合町内会
- 扇町町内会連合協議会
- 大町地区町内会連合会
- 新町町内会連合会
- 西町中央連合町内会
- 本町町内会連合会
- 緑町連合町内会
- 南地区町内会連合会
- 江部乙防犯協会

【座長】

- 東京大学大学院情報学環
総合防災情報研究センター
客員教授 松尾一郎

【アドバイザー】

- NPO法人環境防災研究機構北海道
黒木幹男
- 日本放送協会 山崎登
- 気象予報士 志田昌之
- 【オブザーバー】
- 空知川河川事務所
- 北海道総務部危機対策局
- 北海道建設部建設政策局
- 中空知管内4市5町
(赤平市、芦別市、歌志内市、砂川市、新十津川町、上砂川町、奈井江町、浦臼町、雨竜町)
- 國學院大学北海道短期大学部
- 【事務局】
- 北海道開発局札幌開発建設部
河川整備保全課
- 気象庁札幌管区気象台総務部業務課
- 滝川市総務部総務課防災危機対策室

タイムライン(事前防災行動計画)の概要

【タイムラインとは】

- 住民の命を守る、さらに経済被害を最小化することを目的に、自治体・関係機関・地域住民・民間団体等が、災害やそれに伴うリスクを共有し、災害(警戒)時に、「誰が」「いつ」「何を」するのかを時系列に取りまとめた事前防災行動計画である。

【背景】

- 米国のニュージャージー州危機管理局が、2011年のハリケーン「アイリーン」の事後検証を基に初めて作成したものである。2012年に発生したハリケーン「サンディ」で実際に活用した結果、人的被害の最小化を図ることができた。

【対象とする災害】

- あらかじめ発生が予測でき、減災行動を起こすための猶予時間がとれる災害。
(風水害、土砂災害、高潮災害、暴風雪災害等)

【期待されるタイムラインの効果】

- 先を見越した早目の行動が可能となり、安心・安全、減災につながる。
- あらかじめ役割を決めることで、各関係機関の対応のばらつきが解消され、円滑な連携ができる。
- 首長や災害対策本部等の、意思決定を支援するツールとなる。
- 漏れ・抜け・落ちの防止、チェックリストとしての活用が可能である。
- タイムラインに基づく災害対応を検証することにより、教訓の継承や課題の改善につながる。
- タイムライン策定の過程において、参加機関同士でコミュニケーションが図れ、顔の見える関係が構築できる。